

あなたの12分40秒、私にください

第21期生 白井 空

「小野ゼミに入って、初めてこんな力が身につきました。」そんな言葉を、何度も見たり聞いたりした。自分の意見をはっきりと伝える力、誰かと議論する力、何かに一生懸命になる力、仲間と協力して何かを成し遂げる力、…。同期も、後輩も、OB・OGの方々も、小野ゼミに入ったことで、みんな新しい何かを獲得している。さて、私はどうであろうか。この2年間、何度も考えたけれど答えが出ずにいた。もちろん、分析する力や書式を守って文章を書く力、論文を読む力など、小野ゼミに入ったからこそ獲得できた力は数多くある。しかし、それらは、小野ゼミに入ったら身につくのは、あたりまえであり、私が、私として手に入れた力としてカウントしたくなかったのである。そして何より、答えが出なかった理由は、小野ゼミ生活において、こんな力を初めて獲得できた、と思ったことがなかったからである。小野ゼミに入る前から、自分の意見をはっきりと伝えることは、日常茶飯事であったし、誰かと議論することも多かった。そして、何かに一生懸命になり、仲間と何かを成し遂げる経験も数多くあった。こんな風にかくと、そんなのは贅沢な悩みであると思われるかもしれないが、小野ゼミに入った意味を同期たちが見つけていく中で、私にはそれが無いと思ってしまい、この卒業エッセイをなかなか書き始めることができなかった。

そこで、7年目の親友に話してみた。彼女とは、些細なことから重要なことまで、さまざまなことを話す仲であり、高校時代の私のことも、小野ゼミ生の私のこともたくさん知っている。一通り私の話を聞いて、彼女が一言。「確かに、能力は、元々あったかもしれないけど、その力ひとつひとつが確実にレベルアップしたと思うし、それらすべてを上手に組み合わせて使うことができたからこそ、三田論や卒論を成功させることができたんじゃないかな。」今まで、どんな新しい力を獲得したのかということに囚われすぎていて、本当に小野ゼミに入って成長したと言えるのであろうかと不安に感じていた私の心が、サッと晴れた瞬間であった。今までの私は、ピーマンや人参、たまねぎ、エリンギをそのまま食べていたけれど、小野ゼミに入ってから私は、それらを細かく切って一緒に煮込んでキーマカレー（これは、喩えとして挙げたのですが、小野ゼミに入ってから私は、1人暮らしを始めた大学1年生の私に比して、不思議と早く作ることができるようになりました。）にしてから食べることができるようになった。つまり、料理のように、食材、すなわち力を使いこなすことができるようになったのである。力を獲得することももちろん重要であるが、力を使いこなすことは、もっと大切なことであると考え。

小野ゼミを卒業した私は、これからどんな成長をしていくのであろうか。きっと、学生時代では得ることができなかった力もたくさん身につけていくであろう。獲得した力を伸ばすことをやめず、どんな食材も使いこなすことができる料理上手になっていきたい。

さて、いい感じに終わったと思いきや、おしゃべりな私が1枚に収まるはずもない。先ほどは、私の成

長についてお話しさせていただいたが、あの文章は、私の人よりちょっと高い自己肯定感やポジティブパワーからくるものであり、こうして胸を張って卒業できることが、決して私1人の力ではないことは重々承知している。改めて、感謝を述べていきたい。

◆小野晃典先生

先生が、入会が決定したばかりの第23期生に向けてされたお話が、特に心に残っています。それは「君たちがゼミなんだ。」というお話です。「君たちが、ゼミを楽しくないと思ったとしても、それはゼミのせいではない。ゼミ生である君たちが楽しくなるように変えればいい。君たちが目指すゼミになるために、僕は、どんなことでもするよ。」その言葉を聞いて、私は、ハッとしました。私は、エグゼミに入会していたと思っていたけれど、本当は、私たちがエグゼミにしているのではないかと。振り返ってみると、私たちが第21期生は、さまざまな選択をしました。ディベート大会に2チームで出場したり、入ゼミ活動において“24 hour seminar”というキャッチコピーを掲げたり、日本マーケティング学会主催のマーケティングカンファレンスや、韓国で行われるKSMSという学会に参加したり、三田論や卒論を完成させるために恵比寿のマックやサンマルクに通ったり、…。これらは、エグゼミから強制されたものではなく、どれも私たちが第21期生が決めて行ったものです。小野先生は、どんなに忙しくても、深夜でも早朝でも、私たちの相談に応じてくださったり、ご添削してくださったりしました。私が、同期よりも1~3章の進度が遅れていた時は、何度も対面でご相談する機会をくださいました。先生からのご添削を受けた箇所について、どうしてもここはこうしたいと相談をした時も、君は間違っているから僕の言う通りに絶対に変えなさいなどと言わず、私の意見をしっかりと聞いてくださいました。私は、同期に比して、先生と議論することを厭わない生意気なゼミ生であったかもしれませんが、きちんと私の話に耳を傾けてくれるという安心感があったからこそ、そうあることができたかもしれません。“ご多忙にもかかわらず”という言葉を、よくメールで使っていますが、定型文ではなく心より、ご多忙にもかかわらず、私たちが第21期生が目指すゼミになるために、多くのお時間とお力を頂きまして、誠にありがとうございました。

◆大学院生の先輩方

王さん。王さんと初めてお会いしたのは、私が2年生の時の第2回オープンゼミです。前で立論を発表して席に戻ってきた私を、優しい笑顔で褒めてくださったことが、非常に印象に残っています。4年生になったある日、その出来事を王さんとお話した時、「もちろん覚えていますよ。」とってくださいましたね。まだ入会するかもわからない2年生の私を覚えていただいていたことに感銘すると共に、小野ゼミのあたたかさに触れて、より入会への意欲が増した2年生の私を思い出しました。あの時からずっと、誠にありがとうございました。

北澤さん。ディベートや三田論はもちろん、卒論もオーラルペーパーも、たくさん助けていただきました。ゆる～とした雰囲気の中北澤さんが鋭く指摘するというギャップも好きですが、バレーボールには誰

よりも熱心であったり、二郎にも一緒に行ってくださいたり、嬉しいギャップがたくさんあります。私含め第21期生は、北澤さんに頼りすぎてしまったかもしれませんが、誠にありがとうございました。

カネちゃん。初めて個人で学会に出場するに際して、発表資料に苦戦していた私の相談に乗ってくれてくれましたね。あと、いっぱいパーマ褒めてくれてありがとう。誠にありがとうございました。

◆OB・OGの先輩方

HPと会誌をたくさん拝見し、皆様の歴史から活力を頂いておりました。お会いした皆様は、非常に優しく、就職活動の相談はもちろん、卒論の実験にも参加してくださいました。私も、皆様のような素敵なOGになれるように尽力いたします。誠にありがとうございました。

◆第20期生の先輩方

まずは、私たち第21期生をこのメンバーにさせていただいたこと、ありがとうございます。そして、自分が先輩になってはじめて、先輩方の苦勞を知りました。本当に手のかかる後輩であったとは思いますが、かつこよく助けてくれた先輩方は、いつまでもずっと憧れの存在です。誠にありがとうございました。

◆第22期生のみんな

実は、今までの人生において、後輩指導に全く興味がなく、後輩をかわいいと思ったこともありませんでした。そんな私にとって、先輩になるということは大きな挑戦でした。小野ゼミへの熱い気持ちやみんなへの期待が大きすぎて、厳しい言い方や態度になってしまったこともあったと思います。ごめんね。嫌われたくはないけれど、みんなのためになることはきちんと伝えたいので、軽すぎず重すぎない表現の仕方に、たくさん悩みました。はじめて後輩をかわいいと思わせてくれて、本当にありがとう。

◆家族のみんな

さまざまな方面から私を支えてくれました。自分がない間に作業が進んでしまって、ついていけなくなるのが怖いという私に、アルバイトを辞めるという選択肢をくれてありがとう。大学から近いマンションに住まわせてくれてありがとう。私の体調を気遣って、ご飯を作って送ってくれてありがとう。私がLINEをしたらすぐに返事をくれるし、電話をしたらすぐに出てくれてありがとう。帰省中に、深夜 zoom ができるように対応してくれてありがとう。先生へのお土産は何がいいか一緒に悩んでくれてありがとう。家族旅行中も、私が、深夜 zoom に参加できるような配慮あるプランにしてくれてありがとう。私も、自分の子どもがやりたいことを全力で応援できるような親になりたいです。離れていても、ずっと私の心の支えであったし、それは、これからもずっと同じです。本当にありがとう。これからは、私が恩返ししていきます。

◆親友のみんな

小野ゼミに入ってから、前よりも会えなくなっちゃったのに、変わらず親友でいてくれてありがとう。みんなに小野ゼミのことをたくさん話したから、第21期生の顔も名前も、恋愛事情も、全部知っていて面白かったです。三田論の実験に協力してくれたことはもちろん、私の卒論の実験の音声を収録してくれた親友や、対面で行う必要がある実験の被験者を代わりに集めてくれた親友もいました。小野ゼミのみんなという時間ももちろん大好きだけど、親友のみんなと話したり会ったりする時間があつたからこそ、良い切り替えができたかなと思います。いつもそばにいてくれて本当にありがとう。

◆第21期生のみんな

私は、盲目的ではなく、総合的にみんなが大好きです。少しエンジンがかかるのは遅いけれど、やるぞってなった時の一体感が好き。マックも、ガストも、サイゼも、ディズニーも、グル学も、西校舎の最上階のあの狭い部屋も、みんなと居れば楽しかった。自己肯定感高めでポジティブなくせに、優柔不断だからねえ大丈夫かなこれってみんなに何回も確認するし、いつもず〜っと喋っているいろんな人の話に入ってくるくせに、ハンモックでも、韓国のホテルのあの地下でも、どこでもいつでも寝ちゃうし、みんなやるよ〜ってお尻叩こうとするくせに、卒論全然終わんなくてみんなに署名もらっちゃうしと、一貫性がない私ですが、2年間本当にありがとう。みんなの好きなところを述べたいところではありますが、なぜかエッセイが4ページに突入していて、さすがに5ページはおしゃべりすぎて遠慮したいので、書かないでおきます。この2年間、嬉しいことも、悲しいことも、楽しいことも、悔しいことも、驚いたことも、怒ったことも、笑ったことも、泣いたことも、たくさんあったね。いろんな性格や考え方の人が集まったけれど、やるぞってなった時のパワーは、とつても大きくて、私の自慢です。本当にありがとう。

さて、本来ならば1, 2ページで終わるべきエッセイを、本当におしゃべりな私は、4ページも書いてしまったが、話したいことがまだまだたくさんある。この2年間、小野ゼミは、常に私の真ん中にあるものであった。1日の生活を、小野ゼミ中心で構成しているし、ゼミ以外のプライベートの時間に、小野ゼミの友だちと会っても、高校時代の友だちと会っても、話すのは小野ゼミのことばかりであった。メールが来たら、小野先生かなと思ったし、LINEが来たら、小野ゼミ21期生のグループラインかなと思った。神社にお参りする時は、神様が見つけてくれるように自分の住所を言ったほうが良いという話があるが、私はそれに加えて、「慶應義塾大学商学部小野晃典研究会第21期生の臼井空と申します。」というのも言っていた。ゼミがなかった時期は、本当にみんなが恋しかったし、4年生になってどんどんゼミの中心が第22期生になっていくのが、嬉しいようで寂しかった。私は、今までもこうやって人や場所を大好きになってきたし、これからもそうやって大好きな人や場所を見つけていくであろう。しかしながら、その場その場で大好きになるものを変えるのではなく、どんどん大好きな人や場所を増やしていきたい。小野ゼミ生になれて本当に良かったです。本当にありがとうございました。これからも大好きです。この文章を読むのに必要な時間は12分40秒であるそうです(文字数カウントHP)。貴重なお時間をありがとうございました。